

UDCKまちづくりスクール

街づくりのリーダーを育成！市民・学生・行政が共に学ぶ学校



「市民参加の街づくり」-多くの地域で掲げられる理念ですが、一方で市民にとって街づくりに参加する意義や価値が伝わらずに、実践が伴わないケースも少なくありません。原因の一つは、街づくりに関する市民の理解や教育機会の不足。このため、千葉県柏の葉地区では市民に自らの手で街づくりに参加できる知識やノウハウを身に付けてもらうための「UDCKまちづくりスクール」を開校しています。2007年から始まったこのスクールは、今年で4年目に突入。150名を超えた修了生は、街づくりの現場で活躍しています。

自分の街は自分の手でつくる

「UDCKまちづくりスクール」は、柏市都市振興公社が主催、UDCKが共催し、柏市長が校長を務める市民講座です。柏市民に限らず誰でも受講可能で、市民の中から「街づくりのリーダー」を生み出すことを目標にしています。

2007年5月に第一期がスタート。全5回程度を1期として年2期開催しています。「街を市民がデザインする」「ワークショップの進め方」など、毎回設定するテーマに応じて大学教授や実務家といったその分野のプロフェッショナルを講師として招聘します。受講生は市民・大学生・行政職員がおよそ3分の1ずつで、スクール自体が公・民・学連携の街づくりの縮図となっています。

講座のスタイルは、話を聞く講義だけでなく、体験やワークショップなど受講者が主体的に参加できるよう工夫されています。

運営にも市民が参加

スクールの運営には、修了生や都市工学を学ぶ大学生など、多くの市民がボランティアとして参加しています。

今年で69歳を迎える鳴浜祥之さんも、スクールを支えるボランティアスタッフのひとり。記録係として毎回の講座を資料にまとめる役割を担っています。参加のきっかけは、同じく柏の葉地区で千葉大学が展開している市民講座「千葉大学 柏の葉カレッジリンク・プログラム」に参加したこと。そこで街づくりの面白さに触れた鳴浜さんは、千葉大学の教授から「UDCKまちづくりスクール」の紹介を受け、自らの経験を役立てたいとスタッフとしての参加を決めました。

「以前は街づくりというと、どこか手の届かないところで進んでいるものだと思っていた」という鳴浜さんですが、スタッフとしての仕事を通じて自身も街づくりの中で役割を担えることを実感。今

では「市民の参加こそが街づくりの決め手」だと思えるようになったそうです。



講義を聞くだけでなく、ワークショップも重要な要素。内容はもちろん、多様な人との意見交換も重要な街づくりの勉強。



講座の最後には、グループに分かれてテーマ発表を行うことも。市民が市長に向けて意見をプレゼンする、貴重な経験に。

UDCKまちづくりスクール

街で活躍する市民

スクールで学んだ多くの修了生は、街づくりの現場でリーダー的な役割を担い始めています。そのひとりが、2008年のコースに参加した会社員の豊田美奈子さん。

豊田さんがスクールで学んだテーマは、環境に配慮した街づくりをプランニングする「エコデザイン」。講座の最終日には、課題であったグループ研究で「自転車の乗りやすい街」について発表しました。「せっかく提案したのだから、自ら自転車の魅力発信と利用促進をしていこう」と、受講生の仲間同士で「柏の葉自転車クラブ」を立ち上げ、代表を務めています。

「環境に関する知識を学べたことはもちろん、ワークショップなどで多様な年齢層の人と意見をぶつけ合い、調整する経験ができた。自転車クラブでも、新しい人が参加するときの対応などで役立っている」と、スクールの成果に手応えを感じているようです。

今期のテーマは「住宅」

今期のスクールは、「住宅の未来を考える」をテーマに全4回のコースで行われています。環境配慮型の住宅を評価する柏市独自の制度「CASEBEE柏」が本年1月から運用開始となったこともあり、今回のスクールでは未来の住宅のあるべき姿を環境・デザイン・安全など様々な角度から検討します。

本コースは残すところ後1回となりましたが、2月27日には今期のスクールを締めくくる特別企画として、「安心を分かち合える住まいとは？」と題した住まいに関するフォーラムを、東京大学公共政策大学院I2TAプロジェクトと共催で開きます。

このフォーラムでは、人々の健やかな生活の基盤となる「安心」に着目し、その実現に役立つ先進テクノロジーを紹介しながら、今後の街づくりのあり方を参加者同士で考えていきます。フォーラム単体で参加しても十分に楽しめる内容なので、街づくりの第一歩として参加してみてもいいです。



自転車クラブには毎回10名程度が参加。街でたまたま出会った人と、新しい縁が生まれている。



スクールでは参加者と講師が活発に対話。街づくりに唯一の正解はなく、様々な意見が飛び出す。

お問い合わせは、柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)まで
 [TEL]04-7140-9686
 [MAIL]school@udck.jp
 [URL]http://www.udck.jp

キーパーソン・トーク



丹羽 由佳理氏
 柏の葉アーバンデザインセンター
 アドバイザー / 早稲田大学助手

「UDCKまちづくりスクール」では、コーディネーターとしてテーマの選定や講師候補者との交渉などを担当しています。

運営面では、できるだけ多様な人に参加して欲しいと思う一方で、全員に満足してもらう講座内容を考えることに難しさを感じます。専門的になりすぎず、かといって物足りなくないように。受講生へのアンケートを取るといつも評価が分かれるので、今後も試行錯誤が必要です。

まちづくりスクールは今年で4年目を迎えますが、継続してきたことで大きな手応えを感じています。まず、地域には街づくりで活躍できるポテンシャルを持つ市民が大勢いることが実感できました。そうした人がスムーズに街づくりに参加できるよう、スクールが橋渡し役となり、今後

も実践的に役立つ知識やノウハウを提供したいです。

もう一つの手応えは、行政との連携です。これまで、街づくり現場で活動している多くの行政担当者に講師として出してもらいました。その結果、最近では行政の方から市民と一緒に考えたいテーマや内容を提案されるようになりました。市民と行政職員の距離が近くなり、一緒に学び合えることはとても素晴らしいことです。

今はようやく修了生が150人を突破したところですが、今後も街の様々な場面で頼りになる「街づくりのリーダー」を輩出し続けるスクールにしていきたいです。市民が自分たちの街の問題を主体的に解決できる、そんな自律的で素敵な街にしていきたいことが目標です。

□編集後記□

今期の第一回講座取材の際、最初に紹介された「屋根の家」。住んでいる人が「屋根でご飯を食べることが好き」だったため、それを前提に設計されたそうです。家は、そこに住んでいる人がどのような生活をしているのかを映すもの。「住宅」という視点から自分の街を見直すと、新たな発見があるかもしれません。(蛭川)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK) 広報担当 小林、蛭川
 〒277-0871 千葉県柏市若葉184-1柏の葉キャンパス149街区13
 TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688
 E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB http://www.udck.jp

柏の葉
 アーバン
 デザイン
 センター

UDCK